

トップメッセージ



経営管理委員会会長
萬歳 章

代表理事理事長
河野良雄

東日本大震災により、被災された方々に、心よりお見舞いを申し上げますとともに、復興に取り組まれている方々のご尽力に敬意を表します。

私たちの使命 農林水産業をしっかりと支えています

私たち農林中央金庫の存在意義は、「農林水産業の発展に寄与すること」。この農林中央金庫法の第一条に謳われた、農林水産業のメンバーシップバンクとしての特有の役割は、私たち役職員の一人ひとりが、どのような分野で仕事をしていても、忘れてはならない協同組織中央機関としての使命です。当金庫は、その使命を果たしていくため、会員組織の資金運用の担い手としてグローバルな投融資業務を展開する一方で、農林水産業や関連する産業分野に対する良質な金融サービスの提供、および地域社会に根差したJAバンクやJFマリンバンクの金融事業のサポート、森林組合系統の取り組む森林再生事業等へのサポートに取り組んでおります。

協同組織中央機関としての一層の機能発揮

近年、わが国の農林水産業は、高齢化や後継者不足、価格の低迷などから、生産基盤が弱体化し採算も悪化するという、極めて厳しい状況にあります。しかし、その一方で、食の安全確保や自給率の向上、自然環境の保全、雇用の受け皿など、さまざまな機能への期待が高まっており、また、農地の集約化や施設の共同利用の促進、新たな形態の経営体の出現など、今後の協同組織の事業のあり方に新しい展開を求める動きも盛んになってきています。このような情勢にあって、当金庫が、JA(農協)、JF(漁協)、およびJForest(森組)グループとともに果たすべき役割と社会的責任は、一段と大きくなっていると認識しております。

このため当金庫では、一層の機能を発揮するため①JAやJFにおける農業・漁業・生活のメインバンク機能の強化、②当金庫とJA、JF、各連合組織(JA信農連・JF信漁連)との連携・補完による農林水産金融の強化、③会員組織との人事交流による人材育成、そして④CSR活動を通じた農林水産業・環境・地域社会への貢献に取り組んでまいります。

現場の声に答える。

食・環境・地域社会に深く関わる農林水産業をしっかりと支えていくこと。
それが農林中央金庫の使命にほかなりません。

会員との大切な絆。

常に原点に立ち返り、農林水産業のフィールドで「現場の声に答えるCSR活動」を

90年前に当金庫を設立した全国の協同組合組織は、「相互扶助」と「共生」の理念のもと、厳しい自然と向き合い、経済や社会の変化に対応し、今日にいたるまで一貫して日本の農林水産業の発展に貢献してきました。それは、農林水産業者を経済的に支援することはもちろん、ふるさとの美しい風景を守り、心のつながる地域の暮らしを守ることもありました。私たちは、こうした協同組織の事業や活動が、経済のみならず、環境や地域社会の持続的発展という、CSR活動の目的とすべき分野に本来的に深く関わりを持つことを誇りに思います。

農林中央金庫のCSR活動は、こうした会員のさまざまな業務やユニークな活動事例を踏まえ、「現場の声」に応えながら、私たちの原点である農林水産業のフィールドで、業務全般を通じてその振興や地域社会・環境への貢献のために展開してまいります。

会員との大切な絆… それが私たちのCSR活動の源泉

当金庫では、平成17年3月に「森林再生基金(FRONT80)」を設定し、民有林の再生を目的とした活動への助成を開始しました。また、平成19年度からは、当金庫を含むJAバンクグループが一体となって実施する「JAバンクアグリサポート事業」を立ち上げ、日本の農業・農村に対してこれまで以上に踏み込んだ支援を開始しました。こうした活動については、みなさまからご意見を賜りながら、さらに意義あるものへと発展させていきたいと考えております。

また、平成23年度から2年間の中期経営計画のなかで、東日本大震災の復興対応を最優先に取り組むとともに、協同組織中央機関・専門金融機関としての機能発揮について、発展的に取り組みました。

東日本大震災の復興対応につきましては、平成23年度に創設した「復興支援プログラム」(期間4年程度、支援額

300億円)に基づき、被災された農林水産業者への支援や、被災地域の生活再建に向けた支援、被災会員への事業・経営支援など、役職員一丸となった取組みを展開しました。協同組織中央機関・専門金融機関としての機能発揮につきましては、農林水産業者への金融機能の強化や、農商工連携の取組みなど、各分野における着実な取組みを進めました。

これらの取組みは、私たちの機能が会員にとって価値あるものであるか、農林水産業・地域・そして社会の持続可能性に貢献しているか、という命題が問われていることにほかなりません。

このほか、平成24年は国連が定めた国際協同組合年(IYC)であり、世界的に協同組合のさまざまな活動が注目されました。

このようななか、国内では、2012国際協同組合年全国実行委員会が組成され、当金庫も参画し、協同組合の価値や役割等の周知および協同組合運動の促進に積極的に取り組みました。

おわりに

当金庫は引き続き着実に自らの使命を果たしてまいりますとともに、CSR活動につきましても、農林水産業の現場にある会員と相互に連携し、協同組織のグループ全体で協調して取り組んでいくことが、多くのみなさまのご理解と評価につながっていくものと考えております。当金庫のCSR活動は、こうした会員との「絆」を源泉に、みなさまへの貢献のあり方を考え、社会的な存在意義を確認する、重要なバロメーターとなるものです。

6回目の発行となります本報告書では、こうした当金庫の従来からの取組み、震災からの復興への取組み、国際協同組合年にかかる取組み等について、「現場の声」をご紹介することにより分かりやすくご説明するよう努めたつもりでございます。忌憚のないご意見、ご指導を賜りますよう、よろしく申し上げます。